# 広がるムスリム対応

## 食

## 認証店、新たに 焼き肉・すし

### 京都市サイトに計14

イスラム教の戒律に則した食肉処理の証明書を掲示している焼き肉店（京都市左京区・「南山」）

イスラム圏からの観光客が安心して食事を楽しめる京都の「ムスリム対応レストラン」の認証店に、焼き肉店やすし店が新たに加わった。町家で和食の調理体験ができる教室も認証を取得するなど、「食」に関する外国人の多様なニーズに応える取り組みが京都市内で広がっている。

イスラム教徒は、戒律で豚肉やアルコールの飲食が禁じられている。東南アジアや中東からの誘客に力を入れる京都市は、京都ムスリム協会と協力して2013年から独自の認証制度を設け、戒律に対応したメニューを提供できる店舗をウェブサイトに掲載してきた。京懐石やカフェなど9店でスタートし、新たに5店を追加した。

左京区の焼き肉店「南山」は、京丹後市の牧場から仕入れている「京たんぐろ和牛」を、昨秋から全てムスリム対応にした。一頭丸ごと買い付けている牛を、兵庫県加古川市の業者に委託して戒律に則した方法で加工処理。たれやしょうゆはアルコールを含まない品を用意したほか、豚肉に一度でも触れた食器や包丁の使用は禁じられているため、豚肉そのものの扱いをやめた。

孫貞麗専務は「イスラムには豊かな肉食文化があり、和牛への関心も高い。日本の焼き肉は珍しいのか、滞在中に2回来てくれた客もいる」と手応えを話す。原則予約制だが、口コミで来店する客も増え、予約がなくても対応している。

中京区のすし店「がんこ三条本店」はムスリム対応の3種類のコースを設け、だし巻き卵、天ぷらなどを参加者が調理し、出来たてを食べる。もともと食材に豚肉を使っていなかったため、「一般向けの講座を含めて今後も使わない方針にした」（山本昇平代表）ことで認証の条件をクリアした。調味料などは、ムスリム対応の品に「使用可」のマークを付けて区別している。

「日本の文化、食べ物が大好き」というシンガポールから訪れたアブドゥル・ハリム・タムリンさん（38）とラフィア・アブドゥル・ラマンさん（38）は「動画サイトで和食の調理を見たことがあったけれど、実際にやってみると、より深く理解できて、すごく楽しかった」と満足そうに話した。

各店の情報は専用ホームページ「Muslim Friendly Kyoto」に掲載されている。（阿部秀俊）

## 滞在中、2回来店も

## 町家で和食調理体験

和食の調理を楽しむムスリム観光客たち（下京区）

## 「イスラム」学ぶ連続講座

### 下京で27日から6回

東南アジアからの観光客誘致に向け、京都府観光連盟は、イスラム教の戒律や文化について学ぶ連続講座を27日から京都市下京区の京都タワーホテルで開く。

ビザの発給要件の緩和でタイやマレーシアからの観光客が増える中、それぞれの国の慣習や国民性を知り、接客に生かす狙い。

3月3日までの計6講座で、インドネシア語やマレー語、タイ語の基本を学ぶほか、食に関する戒律、ムスリム集客の現状と課題にも触れる。

府内の宿泊施設や飲食店に勤務する観光業従事者が対象。先着30人。22日までに申し込む。受講条件などの問い合わせは府観光連盟☎075（411）9990。

南北朝期の傑作

# 中巌円月坐像 戻

### 京博から70年ぶり 保存環境整い霊源院

特別公開される中巌円月坐像（左）と胎内仏の毘沙門天立像＝京都市東山区・霊源院　撮影・水沢圭介

頑住職（38）は「ゆかりの僧の像が戻ってくるという長年の夢がかなった。多くの人に像の前で座禅していただき、禅の教えを感じてもらいたい」と話している。

霊源院は室町時代の創建で、禅僧による漢文学「五山文学」の拠点として知られる。五山文学の担い手として著名な中巌円月は、後に霊源院と合併する妙喜庵の開山僧。霊源院開山の龍山徳見とも親交があった。

## 49回目「琳派の美」堪能

普段は拝観できない寺院や所蔵文化財を特別公開する「京の冬の旅」は今年で49回目になる。京都市内の14カ寺が参加。期間中、博物館に寄託されている寺宝が一時「里帰り」する寺もある。

琳派400年記念で初公開される頂妙寺（左京区）は、俵屋宗達「牛図」（重文）が京都国立博物館から返ってくる。下地が乾かないうちに次の色を加える「たらしこみ」と呼ばれる技法で、牛のたくましい筋肉を表現した作品だ。

本阿弥光悦の菩提寺、本法寺（上京区）

（いずれも大人9千円）。半日コースや期間限定のツアーもある。

会期は一部の寺院を除いて3月18日まで。有料。拝観休止日あり。問い合わせは市観光協会☎075（752）7070。（阿部秀俊）

文化観光

## 旅人は

アジアの旅の途中で出会った忘れられぬ少女の愁いは、悠久の時の流れと古都の沈む陽光の中で、作者をとらえてやまない。しかし幸せの風景にあっても、お気に入りの時刻に包まれても、旅人の目から現実社会は消えることはない。

無防備に投げ出された右足と、かたくなに身構える左足は、少女の実生活でのゆれる心情を表したものだろうか。作者の自分を見つめる旅に、旅人には立ち入れない、たたずむ少女像が立ちはだかる。作者の好きな時と、陽光の重なる場で出会った少女に、旅人は他者であることを余儀なくされる。その思いが、出会った証として、創作動機となった作品である。

時を急がされる旅人に、描くことは現実から目を放さないことでもあることを教えてくれる。

（京都市美術館学芸課長・尾崎眞人）

【改組新第1回で。有料。中学生以

高校時代を笑顔で過ごすための、校舎の誕生です
街との間に壁のない、真新しい校舎、
ちょっと特別なレンズを通してみると、ほら、
笑顔に見えませんか?
洛陽総合高校は、未来を見つける高校。
好きなことに集中、